

令和4年度 東京都女性活躍推進大賞 受賞者

大賞

| | | 受賞者 正社員数(うち女性)又は活動地域 | 取組概要・効果 |
|-------|------|--|--|
| 事業者部門 | 産業分野 | (株)吉村 <日本茶を主とする食品包装資材の企画・製造・販売> > 228名(116名) | ○ 経営会議参加枠の約半数を「21世紀枠」と位置づけ、女性や若手職員を積極登用 (吉村流クオータ制) ○補助作業がメインの各営業所の営業事務及びデザイナーについて、 横断的な部を創設し、自ら目標を立て成果をあげる組織に ○「マネジメントは男性、補佐は女性」という風土や 無意識の男女別役割分担意識の変革 を実現し、 女性管理職が増加 (2017:5人→2022:13人) |
| | | (株)ポーラ <化粧品製造・販売> 984名(691名) | ○ 女性エンパワーメントを社内外に強力に推進 (女性役員比率40%) ○ 社員のジェンダー意識改革 に向け、アンコンシャス・バイアス等に関する研修を展開。不妊治療等の費用助成や女性特有の悩みに関するセミナーを実施する等、 女性社員のキャリア形成を支援 ○朝日新聞社と共に、 冊子「10代のためのジェンダーの授業」 を作成。小中学校3万校に寄贈し、 次世代へのキャリア教育を支援 |
| 地域部門 | | 맘・スマイル <子育て情報誌の制作等を通じて、ママの社会復帰と地域活性化を推進> 板橋区 | ○ 無料子育て地域情報誌「イタバシーナ」の制作を板橋区在住のママたちで実施 。子育てママ目線で、地域の魅力や情報を発信(区内250カ所以上で1万部を発行) ○ 孤立しがちな子育て中のママに地域と関わる機会を提供 するとともに、 ママたちの社会復帰を支援 (1年の任期に対し、常時30名以上のママが活動。延べ180名以上のママが参加し、9割以上が早期に社会復帰を実現) ○ママへの謝礼として「板橋区内共通商品券」を渡すことで、 地域活性化にも寄与 |
| | | ママドクターの会 <子育て中の女性医師による有志団体。講演会やメーリングリストを通じて交流> 都内 | ○子育て中の女性医師が講演会・交流会等を通じて交流を図り、 女性医師ネットワークの先駆けとして、13年にわたり活動を継続 ○様々な世代・所属・専門領域の会員を擁し、互いに相談できる、多様性に富むネットワークを構築し、 女性医師の就業継続に寄与 ○地域活動への積極的な参加を推奨し、会員が 地域の働くママのロールモデルとしても活躍 |
| | | 特定非営利活動法人くにたち夢ファーム <貧困やDVなど困難な状況を抱える女性や子供の支援> 国立市 | ○ 貧困やDVなど困難な状況を抱える女性 に対し、一時避難支援、居住支援、自立支援など、行政と連携して 一人ひとりに寄り添ったきめ細かい支援を展開 ○ 地域に開かれた支援の拠点 として、誰もが気軽に立ち寄り交流できるオープンカフェやフードパントリー等、様々な取組を実施し、「 実家(Jikka)のような」コミュニティの役割 を果たす |

優秀賞

| | | 受賞者 正社員数(うち女性) | 取組概要・効果 |
|-------|------|---|--|
| 事業者部門 | 産業分野 | (株)ノヴィータ <ウェブマーケティング支援やコンテンツ企画制作などの情報通信業> 26名(17名) | ○ 女性社長の気づきを各施策に反映し、柔軟な働き方を実現 (在宅勤務を基本とし、個々の状況に応じた働き方は約20種類月48時間から勤務可能。最短3か月ごとに雇用形態を見直し) ○在宅勤務におけるコミュニケーションを活性化するため、週1回の全社員参加の朝会や、ママが集まり情報交換できる雑談会等を開催 ○WEBメディアで 柔軟な働き方の事例等を積極的に発信 |
| | | (株)フジタ <総合建設業> 3,417名(587名) | ○2007年に 女性総合職ネットワーク「F-net」を立ち上げ 、環境改善のための調査・分析、支店や年代を横断した意見・情報交換の実施、各種セミナー開催等により、 組織的に女性活躍を推進 (女性社員比率 2007:2%→2022:13.5%) ○「F-net」の分析等に基づき、育児関連補助や復職支援サービス等、各種両立支援制度を整備 |
| | 教育分野 | 青山学院大学 <11学部27学科、11研究科を有する総合大学> | ○ コロナ禍等の影響で失職、又は転職を希望する女性を対象に、女性のためのITリカレント教育プログラム「ADPISA-F」を創設し 、IT分野で活躍できる人材を育成 ○ 女性のライフイベントを考慮したリカレント教育を推進し、産官学の連携体制も構築 ○修了者の就業率は73% 満足度は5段階評価で平均4.8 |

特別賞

※特別賞…他の団体等への好事例となる点が見受けられ、かつ今後一層の成果が期待される取組を行う団体(又は個人)に贈呈

| | | 受賞者 正規職員数(うち女性)又は活動地域 | 取組概要・効果 |
|-------|---------|---|---|
| 事業者部門 | 医療・福祉分野 | 社会福祉法人フレスコ会 <台東区で特別養護老人ホームを運営> 57名(31名) | ○ 国基準の2倍の介護・看護スタッフの配置、短時間夜勤(8時間)の導入 、年間の好きな箇所で5連休を取得可能にするなど、 働き方改革を推進 ○ゆとりある職場づくりにより、職員が入居者を喜ばせるためのイベントや行事を主体的に企画 |
| | | 社会福祉法人東京児童協会 <都内22か所で認定保育園・認定こども園を運営> 548名(488名) | ○ 看護師・栄養士にもキャリアアップ試験の門戸を開き、園長・副園長として登用 ○事務局次長自ら1か月以上の育児休業を取得するなど、男性の育児休業取得を促進(男性の育休取得率100%) ○栄養士の専門性を活かした食育、看護師プロジェクトチームによる健康教育「いのちキラキラプロジェクト」を展開 |
| 地域部門 | | チームねりまde女子マルシェ <農業に従事する女性を中心とする、女性だけのマルシェ開催団体> 練馬区 | ○「話して・知って・食べて・楽しんで・つながる」をテーマに、防災や子育てなど、農産物販売を超えたテーマも扱いながら会話を楽しむマルシェを企画・開催 (開催実績:9回、来場者数:延べ約17,600名) ○飲食店や区保健相談所など様々な団体と連携しながら 女性農業者が活躍できる場 を作り、農家と消費者の架け橋に |